

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責：大竹永介

## 改憲よりも・・・ あなたは？

★さる3月26日に開催された今年最初のトークイベント「改憲よりも〇〇」は、翌日のNHK ニュースサイトに紹介され、また「赤旗」の4月4日号にも大きく取り上げられるなどの反響がありました。ロシアのウクライナ侵攻を機に、防衛力増強や改憲の議論は高まるばかりですが、あなたはどのように思われますでしょうか？ イベントに視聴参加された作家のたからしげるさんに感想を寄せていただきました。（編集部）

### 知ることの大切さを痛感 たからしげる



3月26日に行われたフォーラムのズーム・ミーティング「みんなで話そう！ 改憲よりも???'」を視聴して感じたことを書き留めておきます。

折しもロシアのウクライナ侵攻が苛酷を極めており、人類の一員としても対岸の火事と見過ごすことはできません。そうしたいま、ぼくたちは、日本人として何をどうすればよいかを、改めて考えさせられる話し合いだったように思います。

マスコミで日々流されるニュースやSNSを閲覧するに、多くの日本人は、ロシアは何てひどい国だろう、ウクライナの人たちが可哀想すぎる、プーチンをどうにかしろ、ゼレンスキーさんががんばれ、難民となった人たちに手厚い救いの手を、ウクライナに勝利を、といった同情や感情論が渦巻いています。

ぼく自身、確かにそうした気持ちに日々、揺り動かされています。しかしながら、これは戦争です。にもかかわらず、まるである種のスポーツかゲームを観戦しているかのような気分が漂っているのです。ロシアが反則わざばかりを多用する悪役で、ウクライナが善戦するヒーローです。物語にするなら、ウクライナは多大の犠牲を強いられながらも、最後はきっと勝利を収めなければなりません。卑劣で悪辣なロシアを打ち負かすのです。この見方はどこまで正しいのでしょうか？

この戦争の犠牲者は、ウクライナの人たちばかりではありません。国家の命令で否応もなく前線に送られ、思わぬ反撃に合って命を散らしたロシアの兵士たちも同様でしょう。戦争は、それ自体が人類に対する犯罪です。希望に満ちていた未来を奪われ、予想もしていなかった不幸に見舞われた人たちは数えきれません。経済的な損失まで考えると、その不幸は世界中に及びます。いいことなんて一つもありません。

ウクライナだけではなく、世界中からあらゆる戦争をなくさなければなりません。そのために、ぼくたちはいま、何をすべきか。ミーティ

ング視聴では、そんな思いがよぎりました。必要なのは、そうした戦争がなぜ起きているかを正しく捉える知識でしょう。結果をもたらした原因まで遡って、一つひとつを解決していくしかありません。

日本は平和憲法によって戦争を放棄しています。しかし、いくら「戦争反対！」と叫んでも、ウクライナのように他国から理不尽に攻め込まれたら、国民一人ひとりの命と財産を守る手立てはあるのでしょうか？ 9条改憲を主張する人たちの大方の意見です。

とはいえ、これを実行に移せば、日本もまた戦争という人類に対する犯罪に手を染める危険に近づきます。いま、ぼくたちがなすべきことは？ ミーティングでも繰り返されていたように、だれもが現行憲法の中身をもっと詳しく、正しく「知る」ことから始めなければいけない、とつくづく思いました。



(たからしげる：作家。1949年生まれ。産経新聞記者在職中に『フカシギ系① シャベる犬』でデビュー。主な作品に『盗まれたあした』『ラッキーパールズ』『ナイトメア』のフカシギクラブ』など。)

◎「改憲よりも〇〇」あなたのご意見をお聞かせください。あて先は [f.kodomo.mirai@gmail.com](mailto:f.kodomo.mirai@gmail.com) です。またこれまでのフォーラムのイベントの一部は録画をホームページからご覧になれます <https://www.youtube.com/channel/UCDNSW-NeuUxGIXxBw73ADuQ>

●5月のフォーラムニュースです。今月も「改憲」について考えてみたいと、3月のトークイベントに視聴参加されたたからしげるさんに感想をお寄せいただきました。この問題を考える際の一助となれば幸いです●ロシアのウクライナへの侵攻以来「9条ナンセンス」の声をよく耳にします。「憲法9条では国は守れない」「実際にロシアのように武力で攻めてくる国があったらどうするのだ」というわけです。なるほど、と思わないでもありません●しかし、と私は考えてしまうのです。いうまでもなく、ウクライナには憲法9条はありませんでした。ウクライナは憲法に戦争放棄をうたっているわけではなくしっかり軍隊を持っていたわけです●それでも、ロシアの武力侵攻を防ぐことはできませんでした。それは「9条が国を守れなかった」のではなく「9条がないことが国を守れなかった」ということではないのでしょうか●もちろん、いきなり攻められたときに無抵抗でいいのか、ということはあるでしょう。私自身、個別的自衛権を否定するものではありません●しかし、力には力、と言い続ける先に何があるのでしょうか。ウクライナとロシアの戦闘は長期化し、ほとんど泥沼の様相を呈しています。ウクライナはとにかく武器を、と叫び、欧米は武器供与と軍事支援を強化するばかり。アメリカの国防長官は「武器さえあればロシアには勝てる」とさえいったと伝えられています。そして、反発するロシアからは第三次世界大戦や、核戦争の言葉さえ……●政府与党からはこの時とばかり「核使用」だの「先制攻撃」だのと威勢のいい言葉が聞こえてきます。「力には力」の行きつく先はいつも無辜なる民の犠牲です●正直なところ、私にもまだ「正解」は見えません。しかし、本当の「平和」の意味を、ウクライナの問題についていけばいかに戦闘をやめ人命を救うかという本当の「和平」の意味を考え続けていくことだけは忘れてはいけないとあらためて強く思います●コロナの終息もまだのようです。皆様どうぞ自愛のほど (o)